

平成26年度第3回周南市社会教育委員会議

議事録

◎日 時 平成27年3月19日(木) 14:00~16:00

◎会 場 周南市市民館本館2階 大会議室2

出席者

○ 社会教育委員 9人

大迫委員、大塚委員、瀬田委員、有國委員、石川委員、近藤委員、徳原委員、戸倉委員、長畑委員

【欠席:清木委員、片山委員、廣澤委員】

○ 事務局 8人

【生涯学習課】木佐谷、中村、貞光、重宗、夏川、松村

【中央公民館】岩崎、村上

1 日程、議題

- (1) 周南市民憲章唱和
- (2) 周南市教育員会 次長あいさつ
- (3) 社会教育委員会議 会長あいさつ
- (4) 議事録署名委員の指名
瀬田委員、石川委員を指名
- (5) 社会教育委員会議 議題
 - ① 周南市学び・交流プラザについて
 - ② 第3期生涯学習推進プラン（素案）について

2 社会教育委員会議 議事（要旨）

① 周南市学び・交流プラザについて

▼事務局 施設の概要、各部屋の設備、減免制度等について「周南市学び・交流プラザご利用案内」をもとに説明。

○会長 学び・交流プラザについて施設概要等をご説明いただいた。何か質問があればお願いしたい。

○委員 施設の予約状況等について、一元的に見ることは可能か。IT技術を活用して、市のホームページから予約状況にアクセスできるなど、新しい取組みを考えられているか伺いたい。

▼事務局 施設予約状況について、インターネット、ホームページを通じて確認できる環境がベターと考えるが、今のところ保留している。この施設は図書館の機能も含んでいるので、図書館のICタグ等とも合わせて前向きに研究していきたいと考えている。

○委員 今までどおり、現地に行つて紙での申請になるのか。例えば、支所での受付は検討できないか。

▼事務局 電話での対応等は親切に行つていきたい。ただし、窓口については、一元化した方が住民サービスの向上につながると考える。複数個所での受付というのは、今のところは想定していない。

○委員 わかりました。ぜひとも利便性のところをよく考えていただきたい。

▼事務局 教育委員会としても、利便性、市民サービスの向上の観点から検討させていただいている。今回はこれでスタートさせていただくが、委員の言われることも十分理解しているので、今後の宿題という形でご理解いただきたい。

○委員 1階に交流室2という部屋があり、それが親子室の機能もあるとのこと。ゆめプラザくまげには子育て支援室があり、幼い子どもをお持ちの家族が集まりやすい場になっている。ここは多目的の中の1つの機能として親子室があるようだが、何か特化していることがあれば教えていただきたい。

▼事務局 この施設は、設計にあたりいろいろな機能を複合化し、効率のよいコンパクトな施設にということで検討を進めてきた。交流室2については、モニターを設置し、多目的ホールの中の映像を見ることが可能になっている。親子連れの方が、お子さんが泣いてしまいホールから出た場合でも、遠慮なく講演の話が聞けるよう、画面で見られる設備を設けた。また、交流室2は調理室と隣り合っており、その間には扉を用意した。調理室で作ったものを交流室で試食することもできる。このような形で複合的に整備した居室である。

また、同様に多目的ホールの北側に交流室1を設けている。こちらは楽屋の機能を持ち、二つに仕切って使うことも可能。楽屋としての機能は十分あり、鏡や手洗などがあるほか、こちらにも舞台のモニターが付いている。以上、工夫をした個所などを紹介させていただいた。

○委員 もう一点、多目的ホールは、全席で最大300を超える程度とのことだが150程度の規模で利用する場合、前側と後側との間を仕切り、部屋を半分にしての使用は可能か。

▼事務局 ホールは一つの空間であること、また、290㎡とさほど大きなホールではないことから、仕切って使うことは特に想定していない。ただし、例えばパーテーション等を入れ込んで、二つの会場を目隠し程度に仕切るのは可能かと思う。

○委員 舞台に緞帳はあるのか。

▼事務局 上から下りるものではなく、学校の体育館のような、両側から引く引き割り緞帳を用意している。

○委員 これだけの施設が始まるということで素晴らしいと思うが、この施設の整備により市内の他の図書館や公共施設が連動して統廃合されるなどの影響があれば教えていただきたい。

▼事務局 その様な影響は特にない。ただ、この地区には今まで新南陽図書館、新南陽公民館、勤労青少年ホーム、社会文化ホール、武道館、と5つのそれぞれ独立した施設があったが、それらの機能を複合化し、一つの大きな建物にした形になる。図書館についても、各図書館はそれぞれ地域性、独自性をもってしっかりとやっていこうと考えているので、ご理解いただきたい。

○委員 もう一点、各ホール、部屋の料金が細かく設定されているが、これは何か参考になる基準というか、どうしてこういう数字になるのか、考え方があれば教えていただきたい。

▼事務局 市内の公共施設については、ランニングコストより算出する数式を、財政担当課が持っており、それに当てはめて算出した。

○委員 国旗と市旗も有料となるのか？

▼事務局 全市的な考え方として、受益者負担という形で消耗品等も使用料を徴収している。各部屋等の使用料は免除規定を用意しているが、冷暖房や附属設備、照明等については実費の負担をいただいている。これらも他の公共施設と同様なのでご理解いただきたい。

○委員 調理室も立派で広い。公民館などでは1団体が専有して使うが、これだけ広いと、いくつかの団体が同時に使えそうだが、可能か。また、他の交流室なども、少人数で使う時などは、2団体でもやって使うことが可能だろうか。

▼事務局 生涯学習なので、もやいの精神で使っていただくのはやぶさかではないが、全面的に利用したいという方も多い。利用者同士が互いに了解し合っただけの利用が前提となる。

また、調理室を広くした理由として、南側には中央公園があり、一時的な避難所の機能も想定している。そのため、調理台の台数も他の公民館に比べて多くなっている。

○委員 エントランスの写真を見ると大変広いスペースが有るように見えるが、待ち合わせの場所や、イスやソファー、テーブルなどが置けるだけの広さがあるのか。そういった場所があればありがたい。

▼事務局 写真では、まだ備品関係を入れていないが、ソファー等を置いたコーナーを設けて、くつろぎの空間というか、ちょっとした座れる空間は設けさせていただきたい。

○委員 喫煙所はどこに作られるのか。

▼事務局 公共施設であり、施設内は全面禁煙で考えている。雨天の場合もあるので、ひさしのある所で、灰皿をどこに設置するか検討中である、

○委員 子どもも出入りする施設である。ソレーネなどは休憩所の近くに喫煙所がある。あのようなことは言語道断だと思う。煙草の香りがしない所をご検討いただきたい。

○委員 もう一点、AEDは置いてあるのか。

▼事務局 2つ予定している。

○会長 ありがとうございます。他にないようでしたら、次の議事に入りたいと思います。

② 第3期生涯学習推進プラン（素案）について

▼事務局： 第3期生涯学習推進プラン（素案）の全体の構成および各事業について説明。

○会長 全体の体系図、新しい事業について事務局から説明をいただいた。ご意見、ご質問等あれば、お願いしたい。

○委員 「地域教育ネットワーク」とあるが、県が進めている中学校区ひとまとまりの「地域協育ネット」と、あえて区別しているということによいか。

▼事務局 「地域教育ネットワーク」については、第4期、第5期の社会教育委員会議において、答申や意見書として「地域教育ネットワークの推進」を提案頂いている。県の事業で「地域協育ネット」という文言が使われているが、それとは分けて「地域教育ネットワーク」という言葉を採用させていただいた。

○委員 プランについては、周南市の生涯学習、市長部局も含めたプランを描くことが必要。教育委員会のものから、例えば子育て、福祉等、周南市の生涯学習を全部同じ土俵の上に出す。その上で、それらを整理したときに、「環境づくり、体制づくり、人づくり、地域づくり」というキーワードで整理できるのか。できないと思う。第2期プランの基本理念では、「ともに学びともに創る 未来につながるまち周南」とある。例えば、最初の章はともに学ぶ、育つ、という機会を充実させること。その次に、ともに創るということで、学んだことや個人のスキルを生かして活動すること、そして、それをバックアップする体制づくり、支援体制という3つにまとめてはどうか。その土俵に市長部局のものも含めて全部広げて、議論し合う必要があると思う。今のものでは、教育委員会のものは見えるが、他の市長部局のもの、周南市全部のものが見えてこない。その辺りを入れていただきたい。

▼事務局 委員の言われることはよくわかる。市では、環境や福祉などそれぞれの部署が生涯学習に関わる行政を進めている。これらの情報を一元化するのはやぶさかではないし、そういう意味で庁内関係部署との連携というのも掲げている。ただし、生涯学習推進プランは、あくまでも教育委員会がこういう形でやっていくという意思表示であり、他の関係部署もそれぞれの計画を持っている。それらの方向性の統一には、生涯学習推進プランの策定にあたり、市長を本部長とした推進本部を設け、関係職員が集まり一元化に向けた議論をさせていただいている。

○委員 ぜひ一元化を目指していただきたい。北九州市の学習プランでは、各部局の生涯学習に関わる施策が記載されている。

▼事務局 資料の一元化という形であれば、交通整理は出来るかと思う。ただ、市全体としては、周南市はこうありたいという、まちづくり総合計画を上位計画として策定させていただいている。それにもとづいて各部局の計画があり、その中で生涯学習プランもその枝の1つにな

る。委員の言われる、このような事業はここの課でやっているというものの整備は、当然行いたい。

○委員 ただ並べるのではなく、一元化が必要である。生涯学習プランの中に、全課の生涯学習に関わるプランが入っている。一枚に入れるということが必要と考える。その先にあるのは、全部を土俵の上にあげた時に、これだけでいいのか、どこか足りない所があるのではないか、という議論をする必要がある、ということ。

▼事務局 そのような議論については、市長を本部長とした生涯学習の推進体制があるので、そこで庁内の意思疎通、コンセンサスを図っていきたい。

○会長 一元化という意味がよくとらえられない部分があると思うが、あくまでも、総合計画の生涯学習分野における推進プランというのが、この位置づけになるかと思う。

○委員 新規の事業が赤字で表記されており、大変わかりやすい。これを見るとプランがどちらを向いているかよくわかる。

一点、ボランティアについて触れたい。子ども達の地域でのボランティア活動についてだが、中高生はかなり実績があると思うが、小学生でもできるボランティアもあると思う。そのような活動にふれば、地域に出ることに違和感がなくなると思う。

最近、子ども会活動がどこの地域でもしりすぼみになっている。一応子ども会はあるが、活動がほとんどないという所が多い。子どもがさまざまな所に出て活動する重要な機会だと思うので、子ども会活動にも目を向けていただきたい。子ども会役員には、何をしたらいいかわからないという人もいる。このような方に、お母さん方のベテランがアドバイスをするなど、お母さん方への指導をする機会を設けることも重要になる。家庭の教育力の低下が指摘されているが、底辺で悩んでいるお母さん方に、なにか、学びというか教えていただける機会というのをプラスしていただきたい。

▼事務局 一点目の小学生のボランティアについては、子ども達のボランティアの機会の拡充について、「地域教育ネットワークによるボランティア機会の創出」を掲げている。基本的には中高生を対象にしたものだが、ネットワークには当然小学校の関係者も入ってくる。最初は中学校と地域がボランティアについて協議する中で、小学生も活動に加わってみればという議論もでてくるかと思う。ネットワークの中での様々な議論がなされ、ボランティア活動がより深まるような形で進めていきたい。

▼事務局 地区のまつりで小学生が喫茶コーナーなどを担当する事例もあるようだが、委員の地域ではいかがか。

○委員 スポ少の子どもはよく出ているが、一部の子だけで、人数も減っている状況にある。

▼事務局 本市では、自治会活動について、加入率の改善に向けて、市と不動産業界と連合自治会で協定を結ばせていただいた事例もある。子ども会活動についても、市子連等と協議しながら、お母さん方にどういうアプローチができるのか検討させていただきたい。

○委員 体系図は非常に分かりやすくまとまっていると思う。構成についても特に異論はない。ただ、しいて言うなら、家庭教育の重要性が1章の出だしからあり、それらが弱くなりそれをフォローする取組がならんでいる。その後、地域の話があればよかった。4章で家庭があまり教育力を持てなくなったのでそれをフォローする取組がある。さらには、地域の教育力も弱くなってきている。それをどういう施策の流れでカバーしていくのか、家庭があつて、地域があつて、その地域をフォローする体制がその次に来るという構成であつたら、なおさらわかりやすいと感じた。

▼事務局 今日頂いた意見をすべて踏まえて、全体の構成も含めてさらによく検討させていただく。

○委員 素案の10ページ、「学びを支える体制づくり」の中の、「生涯学習センターの機能の充実」というのは具体的には「学び・交流プラザ」の運営になると思う。具体的な施策の中で、「学び・交流プラザは複合施設であり、生涯学習活動以外にも多くの市民の利用が見込まれます。生涯学習活動の成果等を展示・発表することで、より多くの市民が生涯学習に触れる機会を創出します。」とあるが、これは具体的にはイベントを想定しているのか、それとも日常的な展示を想定しているのか。それによってエントランスとか生涯学習コーナーの利用も変わる。そういうものを促進する鍵がそこにあると思うが、具体的に何か構想があればお聞きしたい。

▼事務局 どちらかという、日常的な部分を想定している。エントランス等で展示に触れる、また、単純に来館されて各種教室の情報に触れるということもある。また、先程の生涯学習情報コーナーには市内の色々な情報がある。今まで体育館を利用されていた方には生涯学習の情報が届かなかった部分があるが、スポーツに来られた方等でも生涯学習に関する情報に触れる、ということも想定される、と考える。

○委員 その展示物を見ることで刺激になるという説明もあったと思うが、エントランスの写真では、階段下に白いボードが3枚あり、イラストやポスターを貼ると思われる。たとえば絵画等をならべるのであれば、もっと違うソフト面の充実がのぞまれるのではないかと。

▼事務局 パッセージはかなり通路が広い。ここの壁にはピクチャーレールを設置しており、今言われたような絵画等の展示ができる。

○委員 展示物の募集をされるのであれば、早めにして頂きたい。

▼事務局 早くするよう指示したい。

○委員 生涯学習情報コーナーについては、パンフレットだけでなく、パソコンが見られたり、そこで各地域の情報なりが見られるとよい。

▼事務局 生涯学習情報コーナー、それからエントランスは、この施設の顔になる部分である。この施設自体、学びと交流の相乗作用をうたっており、たくさんの方がここを通り、人と人とのふれあいや学習情報にふれるなど、ここはキーになるところと認識している。色々な方に知恵をいただき、工夫をしていきたい。

またこの推進プランの中にも「学びサポーター」というのを、新規で入れたいと考えている。この施設に、もっといろんな方に関わっていただき、みなさんと一緒に作っていきたい。そのためにもいろいろなお知恵は頂きながら、可能なものはどんどん取り組みたいので、これからぜひ可愛がっていただきたい。

○委員 「地域の文化に触れる機会の充実」がプランの中に入るのは、地域の観光の方で頑張っているボランティアガイドとの連携なども、大変楽しみな所と考えている。

○委員 「生涯学習人材ボランティアバンク」と「地域ボランティアバンク」の違いを、説明いただきたい。

▼事務局 「生涯学習人材ボランティアバンク」は、第2期プランの中で全市的なボランティアバンクを構築しようとして取り組んできたものになるが、人材のマッチングなどが難しく達成できていない状況にある。「地域ボランティアバンク」については、中学校区を基本とした地域教育ネットワークの取組みや公民館単位で、地域内の人材情報を登録・集積する、少し小規模なボランティアバンクを想定している。

当初は、全市的にボランティアバンクを作ろうという構想があったが、膨大なものになる点と、顔と名前がよく一致しないと形だけになってしまうということで、地域地域で、いろいろな話し合いの中で、もっと小さい単位、それぞれの地域でボランティアバンクを作るという発想のほうが、役立つものができるという考え方を持っている。

○委員 全市的とか中学校区単位という言葉を入れた方が分かりやすい。それから、14ページに「公民館等など」という記載、また28ページに「特色ある地域づくりへの貢献し」というのも、意味が通らないので、確認をして頂きたい。

▼事務局 誤植など、きちんと精査して、再度、提案させていただく。

○委員 ライフステージに対応した学習機会について、ハヴィガーストの発達課題の視点から

再検討してはどうか。0歳児から老年期までの各成長段階に応じた学習で、そのタイミングでしか達成できない教育課題がある。また、プランの中では、「子ども」や「青少年」の文言が出てくるが、何歳程度を指すのか言葉の定義をはっきりさせるべきと考える。その定義を明確にした上で、発達課題の視点から再検討いただきたい。

また、「まちを共につくる人の育成」で、若者の育成があるが、これらも学ぶことなので第1章に配置すべき。人づくりとは、学んで人づくりをするのであり、位置が違うと感じる。

最後に、周南の文化や歴史を学ぶ機会の充実と現代的課題に関する学習だが、先程のライフステージに関する箇所は個の話であり、これらは社会参加を学ぶものになる。いきなり周南市のことを学ぶではなく、自分たちが住む社会を知るといような大きなキーワードの中に、市の文化、歴史を学ぶというのが入ってくるのではないか。また、現代的課題についても、現代社会に適合したものでなければ人は関心を示さない。現状に即した内容をしっかり吟味していただきたい。

○委員 地域課題を掘り起こすとか、地域に関する公民館の活動でも地域課題に役立つという言葉がでてきた。それらを考えるときに、日常、例えば学び・交流プラザにサロンのようなものがあり、出会い・交流の場があれば、人々の交流・だんらんを通して生まれてくるものもあると思う。学び・交流プラザというのなら、現行の中央公民館にあるサロンのようなコーナーがあり、そこに丸テーブルや休めるようなイスがあればそこがサロンになる。そこでちょっとしゃべろうとか、集まろうかという場所にはなっていくと思う。

▼事務局 学び・交流プラザにも、ぜひ一度、来場いただき、見ていただいて、またアイデアを頂ければと思う。

○会長 全体のプランの体系についてみなさんからご意見があった。私も各地のプランの策定に関わってきた。その視点から見ても、非常によく整理をされたプランの体系になっている。ただ、少し書き過ぎかなという所もあるので、その辺りもよく検討した方がよいと思う。それと、第1章と第3章とで、同じ「地域教育ネットワークを活用したボランティア機会の創出」という文言が出てくる。ここは文言を整理した方がよい。同じ文言では整合性に問題がある。

▼事務局 第1章の方は青少年のボランティアであり、第3章は大人がボランティアとして関わるという内容になっている。もう一度整理して、ご提案させていただく。

○会長 次回は、4月の予定で、さらに総論部分の検討にも入っていきたいと思う。またご意見よろしく願いたい。